

平成 28 年度自立支援協議会相談支援専門部会 第 1 回定例会議 報告書

平成 28 年 7 月 6 日 18:30~20:30
文京シビックセンター5階 区民会館A+B

○地域課題について今回の定例会議では以下のような意見が聞かれた

- 本人・家族の高齢化に伴い、暮らしの基盤が不安定になると心理的、役割の負担が増える。
- 介護保険へスムーズに移行できるか見ていかなければならない。
- 学齢期の専門訓練が必要と思われる。
- 音羽の福祉センターを利用していた障害児の 6 割が知的能力がボーダー以上だった。その人たちは、社会の中で居場所を約束されない人生を歩いて行く可能性が高い。そのような方々への支援について何が必要なのだろうか。
- 専門的な教育を受けていない支援員のスキルアップが必要。
- 様々な事業所が面で支え、個性を活かすネットワークが必要。
- 児童発達支援管理者と相談支援専門員は兼務できない。
- 都の研修で「相談支援は足りている」という説明があったが疑問に感じている。都への発信も必要ではないか。
- 特別支援学校の家族が相談をしたいが話を聞いてくれる場所がないという声を聞く。親のための場を作ることが必要ではないか。